

採 択 年 度

2024 年度

氏 名

坂口 聡子

所 属 機 関

広島大学医系科学研究科 総合健康科学専攻 精神機能制御科学研究室 博士課程後期

課 題 名

在宅緩和ケアにおける高齢がん患者と家族を対象とした「デジタル回想コラージュ」の有効性に関する研究

助 成 額

2,098,000 円

研究報告概要

在宅緩和ケアを含む地域完結型医療が進む中、自宅で過ごす高齢がん患者が増えており在宅療養継続の支援は喫緊の課題である。そのためには、患者本人と同様に家族への心理社会的支援が必要不可欠である。

申請者はこれまでに、心理社会的支援として臨床場面で「回想コラージュ」を患者へ提供してきた。その中で「回想コラージュ」が患者だけではなく、活動の共有体験や仕上げた冊子が家族ケアとして好作用を及ぼし得る経験をしてきた。しかし、終末期がん患者に対する「回想コラージュ」の先行研究では、患者本人の spiritual well-being や自己効力感の向上、不安抑うつ軽減に対する効果を示唆した前後比較研究のみに留まっており、有効性を示すエビデンスは乏しく、家族ケアの有効性も明らかにされていない。

そこで、研究①では在宅療養中の高齢がん患者と家族を対象に先行研究から発展させたデジタル回想コラージュを実施し、無作為化比較試験を用いて患者の心理社会的側面への有効性を明らかにすることを主目的とした。また、家族の QOL 及び患者—家族関係への有効性について検討することを副次的な目的とした。目標対象者数は介入群・対照群の患者・家族 21 名ずつに設定した。研究②ではデジタル回想コラージュを患者と実施した遺族を対象に、共有体験や仕上げた冊子が遺族に与える影響について自記式調査及びインタビュー調査を実施することとした。

本研究遂行により期待される成果として、その有効性が示されれば、在宅緩和ケアにおける患者の心理社会的支援や家族の QOL 及び家族関係の維持向上、グリーフケアにつながる。また本法は、実際の臨床場面で活用しやすい実現可能性のあるプログラムであることから、質の高い在宅療養生活及び療養継続に資することが期待される。

なお、本研究は、「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守し広島大学倫理審査委員会承認を受けるものとする。